
なぜなに種運命編

枯葉野友希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なぜなに種運命編

【Nコード】

N6393U

【作者名】

枯葉野友希

【あらすじ】

この作品は機動戦士ガンダムSEED s i h n n t h e s t o r y C . E 7 6 の設定、解説等を目的としています。本編が堅苦しく感じたら、こちらをどうぞ。まあ、こちらもある意味では“堅苦しい”ですが……

年表 C・E71 / 9月 C・E76 / 1月

C・E71年9月18日

プラント近傍宙域に存在する宇宙要塞“ヤキン・ドゥーエ”をめぐる戦闘が終結。プラント国防委員長パトリック・ザラ。要塞内に侵入した謎の部隊によって殺害される。ZGMF-X13A“プロヴイデンス”パイロットのアリサ・ユージニー。オーブ軍派遣部隊所属ユイ・ハザマ三尉との交戦の末戦死。プラント最高評議会議長シゲル・クライン。地球連合に対して、停戦を申し入れる。ま停戦協定が結ばれる20日までの空白の2日間、各地で戦闘が終結せず、両軍の被害が増加。

C・E71年9月19日

8月11日より行われていたジブラルタル基地攻略作戦が成功。ザフト軍“ジブラルタル”基地陥落。残存のザフト軍部隊はオーストラリアの“カーペンタリア”方面に撤退。アンドリユー・バルトフェルドが指揮する“バルトフェルド”隊は殿を勤めた結果、壊滅的な打撃を受ける。部隊長であるバルトフェルドも左目、左手、右足を失う重症を負った。

C・E71年9月20日

パ・ド・カレール地区より離脱したザフト軍潜水艦隊に対し、追撃してきたユーラシア連邦艦隊が攻撃を仕掛ける。しかし、UMF-4“グリーン”の活躍により、窮地を切り抜ける。マルコ・モラシム。“グリーン”にて、2隻のイージス艦を撃沈させる戦果を上げた。同日の22:00時に“ジブラルタル”方面から離脱してきた艦隊と旧モーリシャス島付近で合流。また、宇宙要塞ボアズにて、プラント評議会議員アイリオン・カナバと地球連合宇宙軍総司令官代理

デュエイン・ハルバートン中将が停戦協定を結び、戦争は終結の方向へ。

C・E71年9月21日

ザフト軍太平洋方面軍拠点“カーペンタリア”攻略戦の途上で、大西洋連邦海軍を中心とした地球連合軍が撤退。撤退から1時間後、地球連合軍艦隊より、戦争終結の旨が伝えられ、停戦が申し入れられる。“カーペンタリア”基地指令ハリス・ノーランドはこれを受諾。また、同時に“ジブラルタル”方面から離脱してきた艦隊が、“カーペンタリア”が包囲されていることを知り、地球連合軍艦隊への攻撃が降伏かの議論で離脱艦隊は割れたが、意識を取り戻したアンドリユー・バルトフェルドが降伏を支持。艦隊は全面降伏を行った。

C・E71年9月26日

大西洋連邦大統領ベンジャミン・バラノフとプラント評議会議長シールゲル・クラインが会談。大西洋連邦、プラント間での終戦が確定。全ての地球連合加盟国もプラントとの終戦協定に調印した。

C・E71年10月14日

大西洋連邦首都ワシントンにおいて、地球連合総会が開かれる。総会の中では戦後問題の処理、国際法廷による戦犯の処罰などが取り決められた。その際、オーブが大西洋連邦自体を戦犯として処分する旨を提言。これに対し、大西洋連邦は「戦犯の処罰よりも、今後の問題の取り決めこそが、第一」として、戦犯の追及を行わない旨を表明。参加各国もこれに同意したが、オーブは最後まで反対の立場にあった。

C・E71年10月18日

プラントにおいて、戦中、戦後の問題を処理、調査するための調査

委員会“戦後処理委員会”が設立。プラント評議会一時解散、退陣へ。簡易的な選挙の結果、当選した議員によるプラント暫定評議会が設立。戦後処理委員会会長、プラント暫定評議会議長には前議長のシーゲル・クラインが当選。

C・E71年10月24日

軍事同盟としての地球連合が解体される。ユーラシア連邦、地球連合設立時に強引に併合した複数の国家に対して、「国家統合としての地球連合はまだ健在である」として、ユーラシア連邦の体制を維持。強権的な姿勢を見せ、連邦内の独立運動を行う国家に対して、軍事的恫喝を行った。

C・E71年10月26日

オーブ連合首長国内から、大西洋連邦軍が撤退を開始。同年の1月30日までの完全撤退を目指す。オーブ連合首長国、独立国家としての体裁を取り戻す。オーブ開放作戦によって主戦場となったオノゴロ島の復興が開始される。

C・E71年10月31日

プラントと地球との国交が回復する。それに伴い、プラント側から戦災孤児養育プログラムが大西洋連邦側に提出され、これに同意。戦災孤児養育プログラムに適合した孤児のプラント移住が始まる。

C・E71年11月2日

オーブ連合首長国。新内閣発足、首相はウトナ・エマ・セイラン。ウトナ・エマ・セイラン、オノゴロ島の復興を2年後のC・E73年までに完了させると国民に対して、明言。

C・E71年11月11日

シン・クドウ。戦災孤児養育プログラムに適合。プラントへ。叔母

であるミノリ・クドウの嫁ぎ先であるアスカ家の養子に。この時、
姓がアスカへと変わる。

C・E71年12月12日

火星近傍宙域にて、地球圏より帰還したエルファンスト・マイネリッター率いる“ラストバタリオン”艦隊とエルファンスト・マイネリッターの祖父であるゲプハルト・マイネリッター率いる艦隊が激突。翌日まで続いた戦闘の後、エルファンスト・マイネリッター率いる艦隊がゲプハルト・マイネリッターの座乗艦である“シャルンホルスト”級宇宙用強襲揚陸艦2番艦“グナイゼナウ”を撃沈。“ラストバタリオン”はエルファンスト・マイネリッターの下、再編成されていく。この戦闘において、双方ともに多数の戦死者が出る。オットー・カリウス中尉、戦死。オスカー・ハインリッヒ少佐、行方不明に。

C・E71年12月29日

“ラストバタリオン”再編成完了。名称を“アイゼン・ライヒ”に変更。地球軍、ザフト軍を離反した艦艇が複数参加。エルファンスト・マイネリッター。地球圏へ出撃する艦艇に対して、宇宙要塞“ダス・ライヒ”内から謁見、演説を行った。“アイゼン・ライヒ”艦隊、一路、地球圏を目指し出撃。目標は月面“プトレマイオス”クレーター。

C・E72年2月15日

ユイ・ハザマ。プラントを訪れ、アスラン・ザラ、ラスティ・マツケンジーと邂逅。キラ・ヤマト。翌日、プラントの病院から退院し、ユイと共に地球へ

C・E72年3月15日

エルファンスト・マイネリッター率いる“アイゼン・ライヒ”艦隊、月面に出現。進路を月面都市“コペルニクス”に変更。大西洋連邦宇宙軍基地“プトレマイオス”は、この“アイゼン・ライヒ”艦隊を所属不明艦隊としたため、初動が遅れた。

C・E72年3月18日。“ラストバタリオン”艦隊。月面都市“コペルニクス”に侵攻。巨大な武力を背景に、“コペルニクス”を無血開城。迎撃のため発進した大西洋連邦宇宙軍艦隊と交戦。LBMS-01A“キマリス”A型の性能により、大勝。しかし、“アイゼン・ライヒ”側も多少の損害を受ける。大西洋連邦宇宙軍艦隊、“プトレマイオス”へ退却。

C・E72年3月20日

大西洋連邦宇宙基地“プトレマイオス”より、謎の艦隊の侵攻が大西洋連邦へと伝えられ、地球連合総会が開かれる。各国が軍事力の派遣を検討するも、戦争終結により軍縮を進めていたため、大掛かりの派兵は難しいとする中、大西洋連邦、東アジア共和国が派兵を行うことが決定される。

C・E72年3月22日

“アイゼン・ライヒ”、分遣艦隊を月面都市“メルクリウス”に派遣する。“アイゼン・ライヒ”艦隊の動きをトレースしていた偵察艦隊より、敵艦隊進軍の報が“プトレマイオス”に届けられる。“メルクリウス”防衛のための艦隊が“プトレマイオス”より出撃する。

C・E72年3月23日

“アイゼン・ライヒ”分遣艦隊、月面都市“メルクリウス”近傍に

至る。しかし、“プトレマイオス”を発した迎撃艦隊と“メリクリウス”に駐留していた大西洋連邦宇宙軍艦隊との間で戦闘が行われる。(メルクリウス沖開戦)

C・E72年3月24日

“アイゼン・ライヒ”分遣艦隊、迎撃の艦隊を振り切り、月面都市“メルクリウス”へ降下。翌日7:00には“メルクリウス”制圧宣言を行う。これに対し、大西洋連邦宇宙軍艦隊は手出しが出来ず、“プトレマイオス”へと撤退。“メルクリウス”を明け渡す形となった。以後、“アイゼン・ライヒ”は“メルクリウス”、“コペルニクス”に2点を最重要拠点とする。“メルクリウス”のモビルスーツ製造工場を無傷で奪取。

C・E72年4月1日

月面に侵攻した正体不明の組織に対し、大西洋連邦が各国を糾合。解体された地球連合を再編。戦後処理委員会会長とプラント暫定評議会議長を兼任するシーゲル・クラインは地球連合への加盟の意向を示す。特使アイリーン・カナバ他数名の議員、文官が地球へ降下。地球連合加盟の調印を行う。同年5月末までに大西洋連邦首都ワシントンに、プラントの大使館が設置されることとなる。

C・E72年4月6日

ザフト軍。防衛要塞ヤキン・ドゥーエより残存戦力を月軌道上のボアズに移動させる。ザフト軍首脳部。志願兵増加を期待し、首都アブリリウスにて国防委員長タカオ・シュライバーが演説。アスラン・ザラ、ミゲル・アイマン他多数のザフト軍兵士、退役軍人が列席。ミゲル・アイマン。演壇にて、自身の新曲を披露しようとしたものの、場の雰囲気合わないと軍首脳部が拒否。予定通り、傷痍軍人のピアノリスト。ニコル・アマルフィのピアノ演奏が行われた。

C・E72年4月10日

地球、ビクトリア宇宙港より“プトレマイオス”に戦力が打ち上げられる。また、同日、バイコヌール。ケープカラナベル、ケネディ、カオシユンなどの宇宙港からマスドライバー。HLVを利用した戦力打ち上げが行われた。

C・E72年4月11日

打ち上げられた戦力回収のために軌道上に展開していた地球軍第7艦隊と10隻ほどの艦艇から構成された“アイゼン・ライヒ”分遣艦隊が交戦。回収作業中だったため、地球軍第7艦隊は防衛体制にうまく移行できなかったため、大損害を被る。しかし、“ラストバタリオン”分遣艦隊は撃退、壊滅させることに成功した。(第二次軌道上会戦)

C・E72年4月14日

ザフト軍モビルスーツ増産宣言。ZGMF-600“ゲイツ”の全軍配備を急ぐ。また、全軍に配備されているZGMF-1017“ジン”のHM化を急ぐと共にノーマル“ジン”及び“シグーディーブアームズ”の新規生産を凍結。補填用パーツ生産のみ継続。局地専用MS“デイン”、“グリーン”、“バクウ”の生産も同様に。大西洋連邦傘下の企業シグマ・インダストリアル社。ザフト軍局地専用MSの権利を捨て値同然で入手。以降、地上部隊へのMSの供給はシグマ・インダストリアル社などの地球系企業によって行われることになる。

C・E72年4月22日

ザフト軍改変。階級制度、地球連合派遣部隊の新規設立。士官学校、軍訓練学校の開設。徴兵制度の検討。志願者年齢の改定等が検討された。しかし、志願者年齢の改定、徴兵制度の検討は見送られ、代わりに女性志願者の優遇などが盛り込まれた。

C・E72年4月26日

ザフト軍初の士官学校が“ディッセンベル”市に開校。アレクシス・サルファー、フレデリック・アデスといった早々たる面々が第1期生として入校。学長はアレクシス・サルファー。

C・E72年5月4日

“ラストバタリオン”。“プトレマイオス”基地に侵攻。分遣艦隊によるハラスメント攻撃を開始。“プトレマイオス”基地東端と南端に拠点の基礎を設立。その2点を分遣艦隊の仮停泊地とし、“プトレマイオス”攻略の橋頭堡とする。

C・E72年5月10日

大西洋連邦大統領ベンジヤミン・バラノフがプラント暫定評議会議長シーゲル・クラインとの間で、ザフト軍派兵に関する会議が行われた。しかし、シーゲルは言葉を濁し、ボアズ駐留艦隊による示威行動とヤキン・ドゥーエからの増援艦隊の出撃のみを確約。肝心の月面派兵はうやむやになった。

C・E72年5月11日

ヤキン・ドゥーエより増援艦隊がボアズに向けて発進。エルファンスト・マイネリッターはザフト軍増援艦隊の到着を恐れ、全軍を“プトレマイオス”攻略に振り向かせる。“プトレマイオス”司令部は戦線の縮小と、未だに封鎖されていない西方から。エンデュミオンクレーター基地への離脱を決意。順次、戦線を縮小させ、撤退戦闘を開始。

C・E72年5月14日

“プトレマイオス”基地の半径10km圏内を制圧。基地防衛部隊の6割を離脱に成功。撤退時に爆弾を仕掛けるなどの罠を残すこと

を考えていたが、“アイゼン・ライヒ”側に進軍速度が予想よりも速かったため、断念。ザフト軍ボアズ駐留艦隊出動。撤退する“プトレマイオス”守備部隊の援護を行う。追撃の“アイゼン・ライヒ”艦隊とのにらみ合いの後、停戦の申し入れが、エルファンスト・マイネリッターより提言され、双方の部隊は撤退。以後、“プトレマイオス”は“アイゼン・ライヒ”に制圧され、月面での絶対的な権力を握るに至る。

C・E72年5月15日

大西洋連邦大統領ベンジャミン・バラノフが“ラストバタリオン”による“プトレマイオス”制圧に対して、遺憾の意を表明。将来的な戦術にはザフト軍との連携が不可欠であるという旨を演説。

C・E72年5月20日

大西洋連邦系企業のモビルスーツ開発企業ジュリアン・ロック社が新しいモビルスーツの概念を提唱。これが後の“アクティブダガー”に繋がることとなる。大西洋連邦。地球連合傘下の国々にGAT-01A/E2“ストライクダガー”を供給。並行して、GAT-105“ストライクE”の生産体制の確立を急ぐ。FX-550“スカイグラスパー”の正式生産、及び配備が大西洋連邦空軍を中心に成立。余剰となったF-7D“スピアヘッド”を地球連合加盟国家への供給を表明。また、“スカイグラスパー”の配備も並行して行うことに。オーブ系企業“モルゲンレーテ社”及び他地球連合加盟国の10企業が“スカイグラスパー”のライセンス生産権を獲得。大西洋連邦宇宙軍、かねてより検討されていたFxeit-565“コスモグラスパー”の開発に着手。“スカイグラスパー”の前面配備により、今後、各国で開発、配備されるモビルスーツの多くが“ストライカーパック”装備可能なコネクターを有する機体となっていく。

C・E72年5月24日

オーブ系企業“モルゲンレーテ”社MS開発部門より、MBT-M1“アストレイ”に変わる新型機体の開発が計画される。擬装の意味も含めて制定されていた国産モビルスーツの形式番号MBTが、オーブ式の形式番号であるORBに戻される。

C・E72年6月1日

“ラストバタリオン”。月面“プトレマイオス”基地より、全世界への電波放送を敢行。“アイゼン・ライヒ”総帥エルファンスト・マイネリッターより、『以後、我々“アイゼン・ライヒ”という1つの国家として行動していく』という事実上の建国宣言がなされる。(“アイゼン・ライヒ”建国宣言) また、同日の17:00時より、“プトレマイオス”を発した“アイゼン・ライヒ”艦隊が“エンデュミオン”クレーターに移動開始。それを察知したボアズでは、司令官の独断で艦隊を発進させ、示威行動を行った。

C・E72年6月2日

早朝より、“アイゼン・ライヒ”が“エンデュミオン”クレーターへの攻撃を開始。此処でザフト軍と“アイゼン・ライヒ”が初めて交戦。ハイネ・ヴェステンフルス。オレンジ色に塗装された専用のZGMF-600“ゲイツ”を駆って、戦闘に参加。鹵獲されたGAT-01A/E2“ストライクダガー”、LBMS-01C“キマリス”を含む6機のモビルスーツを撃墜。大西洋連邦の伝説的エースパイロット。ムウ・ラ・フラガと並び称され、“エンデュミオンの鷹”の異名が与えられる。しかし、本人は先輩パイロットであり、同じバンドのメンバーであったミゲル・アイマンより受け継いだ“黄昏の魔弾”の愛称を好んだ。

C・E72年6月3日

“エンデュミオンクレーター”での攻防戦は地球連合軍部隊の撤退

という形で終結。“アイゼン・ライヒ”、“エンデュミオンクレーター”の制圧に成功。地球連合軍部隊は“ダイダロスクレーター”基地方面と“ローレンツクレーター”方面に分かれて撤退。

C・E72年6月6日

大西洋連邦大統領ベンジャミン・バラノフが倒れる。側近であるジョセフ・コープラントが代理として就任。翌日、ベンジャミン・バラノフの死亡が確認される。そのまま、ジョセフ・コープラントが正式な大統領として就任。

C・E72年6月7日

大西洋連邦大統領ジョセフ・コープラント。自前のホットラインを用いて、プラント暫定評議会議長シーゲル・クラインと会談。弁論を駆使して、前大戦時に放棄された“ローレンツクレーター”基地を獲得。さらにボアズ。ヤキン・ドゥーエの駐留艦隊から戦力を“ローレンツクレーター”に派遣させることに成功する。

C・E72年6月8日

宇宙要塞ヤキン・ドゥーエより艦隊が発進。ボアズ駐留部隊と合流し、月面“ローレンツクレーター”に降下。さらに“ローレンツクレーター”に逃げ延びた地球軍部隊と合流。以後、“ローレンツクレーター”を軍事基地として再建。先の大戦同様に“グリマルディクレーター”を挟んだ軍事境界線が成立。(第二次グリマルディ戦線の構築)

C・E72年6月17日

“アイゼン・ライヒ”。戦闘によって疲弊した戦力を回復するため
の戦力増強計画を発令。兼ねてより計画されていた量産型汎用モビル
スーツLBS-02A“アストール”の生産開始。“ドイツ
チュラント”級高速戦艦の増産、LBS-01C“キマリス”C

型の生産ラインの転化。これによって、“キマリス” A型の生産は停止され、戦闘を生き残った20機弱のA型も全てC型への換装処置を受けることになる。“アイゼン・ライヒ” L2宙域を確保。工業用コロニー“LZ222”を建造開始。

C・E72年6月29日

大西洋連邦。ボアズ駐留艦隊の増強を決定。それに伴い、余剰戦力をL4方面に移動。コロニーメンデルの軍事拠点化を提案。東アジア共和国系企業ユシマ造船“ボズゴロフ”級のライセンス生産権を取得。プラント、L4宙域に新たな工業用“プラント”の建設を計画。これが後の“アーモリー”市となる。

C・E72年7月4日

オーブ系企業“モルゲンレーテ”社MS開発部門より、新型MS開発計画“武御雷”計画始動。ORB-74 M2“アストレイ”の開発に着手。先の大戦の影響により建造が頓挫していた“アマギ”級航空母艦の建造再開。

C・E72年7月14日

ユーラシア連邦領内エストニアで武装市民による蜂起が発生。払い下げられたパワードスーツなどで武装した市民とユーラシア連邦軍が交戦。この武装蜂起にはユーラシア連邦軍の元軍人も参加しており、泥沼の市街戦の様相を呈した。(血の武装蜂起)

C・E72年7月18日

エストニアで起きた武装蜂起“血の武装蜂起”は鎮圧されるものの、各所で独立を目的としたサボタージュ、テロ、武装市民の一斉蜂起などが相次ぐ。大西洋連邦大統領ジョセフ・コープラント。ユーラシア連邦領に部隊派遣の意思がある旨をユーラシア連邦書記長アルトゥール・ブルシロフスキーに伝えたが、ブルシロフスキー書記長

はこれを拒否。あくまで自国の独力による解決を模索する。

C・E72年7月22日

オーブ連合首長国。地球連合への派遣のみを目的とした特殊部隊の設立を構想。“特殊任務群”と名付けられ、議会で承認。同年8月には戦闘技術教導団を中心に部隊が編成される。セイ・シラカワ三尉。特殊任務群への転属を希望。第3戦車大隊、第12普通科大隊、第6高射特科大隊、第2MS戦闘群が特殊任務群の中核部隊となる。同年8月28日までにオーブ国防府の直轄部隊として、編成を終える。

C・E72年8月11日

ユーラシア連邦領クロアチア等、多数の地域でユーラシア連邦への不満が募り、“ユーラシア解放戦線”が結成される。アナーキスト、独立主義者、傭兵、元軍人など多数の人員が参加。以後、勢力を拡大し、打倒ユーラシア連邦を掲げていく。

C・E72年8月31日

東アジア共和国。宇宙軍の増加派兵を決定。翌日、“アガムムノン”級航空母“アドミラル・ヤマモト”を中心とした1個艦隊戦力の打ち上げを敢行。

C・E72年9月2日

衛星軌道上にて“アイゼン・ライヒ”艦隊と戦力を回収にやってきたボアズ駐留艦隊との間で戦闘が発生。（第三次軌道上会戦）しかし、第二次軌道上会戦の反省を生かし、多数の護衛艦隊を引き連れていたため、撃退に成功。艦隊に損害があったものの、戦力の回収に成功。この戦闘が対“アイゼン・ライヒ”戦での初の黒星となった。

C・E72年9月16日

シン・アスカ、ルナマリア・ホーク、レイ・ザ・バレル。“アプリ
リウス”市ザフト軍士官学校入学。

C・E72年9月22日

“アイゼン・ライヒ”月軌道周辺を航行する船舶全てに対して、無
差別攻撃を実施。第二次世界大戦時のUボートの戦法同様に“群狼
作戦”を敢行。以後、両軍の偵察部隊が月軌道上で小競り合いを繰
り返すことになる。

C・E72年9月24日

オーブ連合首長国。特殊任務群が西ヨーロッパ地方での治安維持活
動に参加。セイ・シラカワ三尉。二尉に昇進。特殊任務群所属のモ
ビルスーツ部隊“第2 MS戦闘群”に配属。

C・E72年10月11日

月面での戦闘が収束。以降、月面における制空権の奪い合いを目的
とした戦闘が激化。士官学校第1期生が卒業。続々と前線に投入さ
れる。フレデリック・アレス少佐。ナスカ級11番艦“ヴェサリウ
ス”着任。アレクシス・サルファー大佐。学長として士官学校に在
籍。

C・E72年11月1日

ザフト軍。モビルスーツ部隊再編成へ。アスラン・ザラ。中尉待遇
で士官学校モビルスーツ教育要請学科の教官となる。同年11月7
日にアスラン・ザラ中尉の先の大戦での回顧録が発売される。題は
『友と君と戦場^{ユウトキトセウジョウ}で』

C・E72年11月23日

士官学校第2期生卒業。マリク・ヤードバース少尉。ナスカ級高速
戦艦“ハーシエル”の操舵手として配属。チェン・ジエン・ヤー少

尉、ナスカ級高速戦艦“トンボー”の火器管制担当官として配属。
バート・ハイム伍長。ジェン・ヤー少尉同様に“トンボー”の策敵
手に配属。

C・E73年1月1日

ユーラシア連邦領クロアチアにて大規模なデモ行進が発生。そのさ
なか爆弾テロが発生。ユーラシア連邦軍、見境無く攻撃を実施。多
数の負傷者、死者を出した。ユーラシア連邦領でのユーラシア連邦

実質的にロシア連邦への不満が増加。ユーラシア解放戦線。規
模を増大。ユーラシア解放戦線、“血のバレンタイン”同様に民衆
への喧伝を兼ねて、この事件を“血の新年”と呼称。

C・E73年2月1日

大西洋連邦海軍。ザフト太平洋艦隊と共同歩調態勢を取ることを表
明。オーストラリア“カーペンタリア”基地。規模を増大。以降、
“カーペンタリア”基地は大西洋連邦艦隊、ザフト太平洋艦隊の共
同停泊地として機能することに。

C・E73年2月10日

地球連合加盟国全てによる会議がワシントンで開かれる。しかし、
ユーラシア連邦は会議を欠席。プラント暫定評議会議長シーゲル・
クラインも宇宙での情勢の悪化に伴い、現地駐在の外交官が代理を
務めた。(ワシントン会議) 会議の議題となったのは今後の対“
アイゼン・ライヒ”戦略であったが、地球連合加盟国のうち、プラ
ント、大西洋連邦、ユーラシア連邦、東アジア共和国以外の国家で
はまともな宇宙戦力が無いため、この4ヶ国が中心となって議論が
行われる。

C・E73年2月16日

プラント。複数存在した設計局を全て統合。統合設計局は以後、軍

主導の物となった。また、モビルスーツ武装の殆どを“マイウス・ミリタリー・インダストリアル”社が開発することになる。

C・E73年3月5日

大西洋連邦にて、GAT-01A/E2“ストライクダガー”の実質的な後継機となるGAT-03A/M“ダガー高機動型”（アクティブダガー）がロールアウト。初期生産ロットの24機が実働部隊に配備され、初期作戦能力を獲得。後に、“ダガー高機動型”が配備された部隊は地球連合宇宙軍第6艦隊所属第7独立艦隊所属MS部隊“アイアン・イーグルズ”として、再編成される。

C・E73年3月9日

地球連合軍。LBM S-01C“キマリス”への対抗策が課題となる。新たな戦術ドクトリンの構築。ザフト軍首脳部。配備中のZGMF-600“ゲイツ”の近代改修案を模索。統合設計局より、ZGMF-601“ゲイツ”R型の案が提出される。この改修案提出の結果、既存の機体の改良を行っても、意味が無い。という結論に行き着いたザフト軍首脳部は統合設計局に新型汎用機の開発を依頼。新型汎用機の開発までの中繋ぎとして“ゲイツ”R型の改修案を採用。

C・E73年3月11日

大西洋連邦軍首脳部より、配備MSの統一案が提出される。各国により、採用機のコンペティションが行われることに。オーブ。試作段階のM2“アストレイ”の提出。プラント「新型機の開発中」との理由により、既存機の“ジン”MH型の改修機であるZGMF-1017 M2“ジンハイマニューバ2型”を提出。事実上の棄権。大西洋連邦のみ、新型機の実機を提出するという事態になった。

C・E73年3月26日

大西洋連邦軍首脳部。前述の配備MSの統一案を撤回。ただし、今後、地球連合加盟国で開発される機体には全て、“ストライカーパック”装備用のコネクタを装備することを要求。しかし、既存機に関しては、この限りではないと明言。

C・E73年3月27日

プラント統合設計局。大西洋連邦の国産MS、GAT-105E“ストライクE”をベースにした機体の開発案を提出。ザフト製“ストライク”の登場。しかし、あらゆる面で“ストライク”を凌駕した機体であるとされた。後に本機にはZGMF-X56S“インパルス”という敬意番号とコードネームが与えられる。プラント統合設計局。“インパルス”と同時に複数の局地戦専用機の案を提出した。

C・E73年3月29日

オーブ系企業“モルゲンレーテ”社MS開発部門。“武御雷計画”におけるM2アストレイにストライカーパックコネクタを装備した設計図を軍首脳部に提出。また、実物大モックアップとORB-71M1“アストレイ”のM2型改修案仕様機ORB-71M1B“アストレイ”の実機も提出。3機のテスト機のパイロットには“モルゲンレーテ”社社員のアサギ・コードウエル、マユラ・ラバッツ、ジュリ・ウーニエンの3名が選出される。M2“アストレイ”。

C・E73年4月1日

デブリ・ベルト軌道上に存在した“ユニウス・セブン”が何者かの手によって、地球に降下。ザフト軍士官学校MSパイロット養成科の生徒達が、卒業前の最終検定試験のために付近の宙域で実機を使った機動訓練を行っていたため、現場に急行。空間制圧を行った後、現状待機。ボアズ艦隊到着後は撤退する予定だったが、訓練艦がメ

テオ・ブレイカーを搭載していたため、現場指揮官の独断で爆破作業を敢行。しかし、降下する“ユニウス・セブン”内に潜んでいたテロリストによる襲撃を受け、ルナマリア・ホーク訓練生が死亡。しかし、“ユニウス・セブン”の本格的落下は防がれた。北米南部に直径13cm程度の破片が落下。また、爆破作業の結果、発生した微細なチリによって、太陽光が防がれるなどの二次的災害にとどまった。“アイゼン・ライヒ”。無差別な周波帯でのエルフランスト・マイネリッターでの演説を放送。アスラン・ザラ中尉。本国にて査問会を受ける。

C・E73年4月3日

“ユニウス・セブン”爆破作業中に命を落としたルナマリア・ホーク訓練生の葬儀が行われる。葬儀は国葬となり、プラント市民の多くが彼女の死を悼んだ。ルナマリア・ホーク訓練生。戦死扱いとなり、3階級の特進。中尉となる。

C・E73年4月12日

シン・アスカ、レイ・ザ・バレル。士官学校を卒業。シン・アスカ。月周回軌道の哨戒艦隊に配備。レイ・ザ・バレル。“ローレンツクレーター”基地に配備。

C・E73年4月28日

プラント統合設計局。ZGMF-X56S“インパルス”のモックアップ完成。“アビス”、“ガイア”、“カオス”設計終了。大西洋連邦から研究用のGAT-105E“ストライクE”調達。プラント統合設計局員コートニー・ヒエロニムス中尉相当官、マール・ストロード中尉。“ストライクE”のテストパイロットに就任。

C・E73年5月9日

大西洋連邦首都ワシントンにて、地球連合加盟国の各軍での代表に

よる合同会議が開始。ザフト軍、新機軸のモビルスーツ“セカンドシリーズ”の発表を行う。“インパルス”、“カオス”、“アビス”は概ね好印象だったが、“ガイア”のみ、その機体特性を疑問視する声上がる。

C・E73年5月18日

月周回軌道にて、“アイゼン・ライヒ”、ザフト両軍の哨戒艦隊が激突。シン・アスカ少尉、ZGMF-601R“ゲイツR”にて、LBMS-01C“キマリス”C型を撃墜。

C・E73年5月27日

“アイゼン・ライヒ”。予ねてより計画中だった巨大戦艦の建造に着手。“ダス・ライヒ”級と名づけられる。また、地球侵攻を考慮して、地上用の兵器の開発に着手。“キマリス”の地上タイプ。LBMS-01E“キマリス”E型の開発が行われる。

C・E73年7月11日

ZGMF-X56S“インパルス”ロールアウト。量産機としてのコスト高騰によって、全軍配備は不可能とされ、一部エースパイロットに配備する方式へシフト。代替案“ミレニウムシリーズ”の案が提出される。

C・E73年7月29日

ZGMF-X24S“カオス”、ZGMF-X31S“アビス”、ZGMF-X88S“ガイア”がロールアウト。しかし、可変機構を採用したため、信頼性に掛けるとして、試作機扱い。また、“インパルス”が事実上の不採用扱いになったため、開発予算が削減され、実戦部隊への配備は事実上、取り消しとなった。

C・E73年8月12日

“エンデュミオン”クレーターにて地球軍部隊と“アイゼン・ライヒ”国防軍との間で戦闘が発生。“アイゼン・ライヒ”側は地球軍部隊を撃退したものの、基地施設の一部と9機ほどのモビルスーツが撃墜された。“アイゼン・ライヒ”総帥のエルファnst・マイネリッターは増援を送ることを決定。同年8月25日にモビルスーツ部隊を中心とした“グリユーネバルト戦闘団”を送り込む。

C・E73年10月1日

“アイゼン・ライヒ”総帥エルファnst・マイネリッターの提言により、国防軍とは異なった部隊の設立が行われる。正当な“アイゼン・ライヒ”出身の兵士を中心とした親衛隊の設立。及び、それ以外の2級国民によって編成された通常部隊。そして、それを統括する政治将校的役割を持った帯剣師団の編成が行われた。

C・E73年10月24日

ガスパール・ユンガー軍曹、リサ・アルディーネ軍曹。“アイゼン・ライヒ”国防軍に入隊。タスク・バゼラード准尉。軍訓練学校から設立間もない帯剣師団の教育大隊に入隊。青年将校として訓練を受ける。

C・E73年10月27日

月軌道上で、ザフト軍哨戒艦隊と訓練中だった“アイゼン・ライヒ”帯剣師団の教育大隊が衝突。シン・アスカ少尉とタスク・バゼラード准尉。お互いにZGMF-601R“ゲイツR”、LBMSS-01C“キマリス”C型に搭乗し、邂逅。しかし、本人達はそのことを知らなかった。

C・E73年11月2日

アスラン・ザラ中尉、大尉昇進。プラント本国での教官の任務を解かれ、“カーペンタリア”基地への転属が決定。アスラン・ザラ大

尉の回顧録『友と君と戦場で』がリバイバルヒット。ドラマ化が決定。

C・E73年11月23日

“アイゼン・ライヒ”、C・E74年中に地球、ヨーロッパ方面への大規模兵力模降下作戦“帝国奪還作戦”の立案に入る。地球上で運用される兵器の開発が佳境に入る。史上初の多装脚戦車、オートマトンタイプの対歩兵戦車の開発が開始。

C・E73年12月16日

“アイゼン・ライヒ” 総統、エルファンスト・マイネリッターの身辺警護を目的とした独自戦力部隊の編成が終了。後に第1武装親衛隊機甲MS師団“ライプシュタンダーテ・マイネリッター”と呼ばれる。

C・E73年12月20日

オーブ首長国連合、赤道連合に加盟。赤道連合加盟各国に対して、ORB-71 M1“アストレイ”の改良型に当たるORB-71 M1B“アストレイ” B型を供給。

C・E74年1月12日

オーブ首長国連合、ORB-74 M2“アストレイ” 初期生産型の20機がオーブ陸軍教導団MS部隊に配備。テストパイロットであった、アサギ・コードウエル、マユラ・ラバッツ、ジュリ・ウーニエン。二尉待遇で陸軍モビルスーツ教導団部隊に配属。

C・E74年1月17日

“アイゼン・ライヒ”、新型モビルスーツの開発に着手。総統機であるLBMS-Y-00-2“コダール”をベースにした機体として開発が開始。LBMS-03“エリゴス”の形式番号とコードネ

ームが与えられる。

C・E74年1月28日

シン・アスカ少尉。30機目の撃墜スコアを上げ、ネビュラ戦功勲章が授与。一躍、月戦線でのエースパイロットとして国内での人気を集めるようになる。

C・E74年2月12日

大西洋連邦。新“ストライカーパック”を公表。さらにGAT-01A1“ストライクダガー”のマイナーチェンジ機であるGAT-02L2“ダガーL”の実戦配備も同時に公表。ORB-74M2“アストレイ”をオーブ首長国連合より調達。Type74の名称で、第81教導団“フロントムペイン”に配備。

C・E74年2月14日

“ユニウス・セブン”追悼慰霊祭がプラント本国の“ユニウス”市で執り行われる。シン・アスカ少尉。前線より呼び戻され、参加。その他、エースパイロット数名も呼び戻される。レイ・ザ・バレル少尉にも参加の要請がされていたが、本人が辞退。追悼慰霊祭の最中、新型戦艦“ミネルバ”級の存在が明らかに。さらに可変型空戦用モビルスーツAMA-953“バビ”とZGMF-X23S“セイバー”の存在も公表される。

C・E74年2月15日

プラント最高評議会議長選開始。下馬評では、ギルバート・デュランダル氏が人気を集めていた。

C・E74年2月19日

ユマ・コウツキ曹候補生。適性検査によりモビルスーツパイロット養成コースへ。転科に伴い、曹候補生から准尉に昇進。

C・E74年2月27日

プラント最高評議会議長選終了。ギルバート・デュランダル氏が議長に就任。それに伴い、プラント暫定最高評議会、解散。議院の多数の入れ替えが行われる。

C・E74年2月29日

ユーラシア連邦領ウクライナ地方で大規模なデモが発生。それに乘じて、各地の軍事基地が襲撃。モビルスーツなどの兵器が多数奪われる。ユーラシア連邦、簡易量産モビルスーツの開発に着手。同年5月初頭にザフト軍のZGMF-1017“ジン”を独自技術で発展させたモビルスーツCAT-12A-1u“レアクツイーイ”が開発される。

C・E74年3月12日

ユーラシア連邦書記長アルトウール・ブルシロフスキー。地球連合加盟国に対し、鎮圧部隊の派遣要請を行う。大西洋連邦、赤道連合、東アジア共和国がこれに応じ、派遣部隊の編成を行う。オーブ首長国連合の特殊任務群。初の出撃となる。

C・E74年3月26日

ユーラシア解放戦線の実質的指導者、ブツテル・シバノフスキー將軍が始めて公の場に姿を現す。シバノフスキー將軍、ユーラシア連邦領ウクライナ地域の開放を大々的に宣言。ユーラシア連邦書記長アルトウール・ブルシロフスキー・シバノフスキー將軍を最重要目標として認知。

C・E74年3月27日

ユーラシア解放戦線。“アイゼン・ライヒ”との協調姿勢を取ることを決定。それと同時に、ユーラシア連邦領ベルリンに駐留してい

るユーラシア連邦軍に対して攻撃を開始。

C・E74年4月1日

“アイゼン・ライヒ”。地球ヨーロッパ地方への大規模降下作戦を実施。第1陣として歩兵部隊、機甲兵力を中心とした戦力を投入。降下部隊は翌、25:00より降下を開始。目的地はユーラシア連邦領ベルリン。駐留のユーラシア連邦軍、過日よりのユーラシア解放戦線との戦闘により、疲弊。“アイゼン・ライヒ”を迎え撃つことなく、撤退。

C・E74年4月2日

ユーラシア解放戦線、“アイゼン・ライヒ”両軍によりベルリンの開放が宣言される。“アイゼン・ライヒ”降下部隊指揮官ドミニク・マイファルト中将。ユーラシア解放戦線司令官ブツテル・シバノフスキー将軍と面会。協調体制の確認が行われる。

C・E74年4月9日

“アイゼン・ライヒ”降下部隊第2陣が降下開始。タスク・バゼラード少尉。帯剣師団所属のモビルスーツパイロットとして地上へ降下。

C・E74年4月12日

ZGMF-1000“ザクウォーリア”の実戦配備開始。同時にZGMF-1001“ザクファントム”も実戦配備。初期生産型25機が月戦線を中心としたパイロットに配備される。リーカ・シエダ中尉、シホ・ハーネンフース中尉。他数名のパイロットがZGMF-1000“ザクウォーリア”を受領。レイ・ザ・バレル少尉、ハイン・ヴェステンフルス中尉。他数名のパイロットがZGMF-1001“ザクファントム”を受領。

C・E74年4月14日

“アイゼン・ライヒ”降下部隊ヨーロッパ各方面へ移動開始。同年の5月19日までにベルリンの主要な港、空港を確保。ベルリンに大本営を設立。ユーラシア連邦領ベルリン。国家としての“アイゼン・ライヒ”首都として機能し始める。また、占領地の領民を中心に志願兵の徴募を開始。

C・E74年5月13日

ザフト軍新型水中用モビルスーツUMF-5“ゾノ”の実戦配備が開始。しかし、初期の調達予定数から大幅に削減される。TMF/A-802“バクウ”、AMF-101“デイン”の後継機となるTMF/A-803“ラゴウ”、AMA-953“バビ”の生産本格化。ZGMF-23S“セイバー”が大西洋連邦、赤道連合、東アジア共和国などに寄与される。生産コスト増を防ぐために、寄与された機体は輸出仕様のノックダウン機。そのため、完全にPS装甲を実装した機体はザフト軍のみの配備に限られた。同年6月頃に“カーペンタリア”基地防空隊所属のアスラン・ザラ大尉。フルPS装甲仕様のZGMF-23S“セイバー”を受領。

C・E74年5月24日

大西洋連邦宇宙軍所属の“ナナバルク”級3番艦が試験航行中に“アイゼン・ライヒ”側に拿捕される。以後、自軍の艦艇“ガーティール”として運用されることに。大西洋連邦。航行試験の記録を公式末梢し、建造が進んでいた4番艦を3番艦として再登録。

C・E74年5月28日

“アイゼン・ライヒ”。拿捕した“ナナバルク”級3番艦に“ガーティール”の名称と自軍の船籍番号を与え、実戦部隊に配備。ハインツ・ライネツケ中尉。“ガーティール”のモビルスーツ部隊長として着任。ステラ・ルーシェ准尉、ユウト・シュナイプス少尉、

ザビーナ・クルツ少尉。ライネツケ中尉が部隊長を務めるモビルスーツ部隊へ着任。拿捕された“ナナバルク”級3番艦に乗艦していたクルー数名が“アイゼン・ライヒ”への亡命を希望。大西洋連邦宇宙軍所属のイアン・リー大尉。“アイゼン・ライヒ”へ亡命。

C・E74年6月7日

“アイゼン・ライヒ”。新型モビルスーツLBM S - 03 “エリゴス”の実戦配備開始。地上に降下した帯剣師団を中心として配備される。タスク・バゼラード少尉。“エリゴス”を受領。ガスパール・ユンガー少尉、リサ・アルディーネ少尉。増援部隊として地上へ降下。

C・E74年6月12日

ユーラシア連邦での戦闘激化。東アジア共和国軍派遣部隊。対“アイゼン・ライヒ”戦を見据え、戦力の増強をユーラシア連邦へ提言。しかし、「自国領内にこれ以上、他国の軍隊を置くことは出来ない」という理由で却下。

C・E74年6月14日

ユーラシア連邦書記長アルトゥール・ブルシロフスキー。何者かによって暗殺される。新書記長としてセルゲイ・アルセーエニフが就任。前書記長であるブルシロフスキーによって退けられた東アジア共和国からの派遣部隊増強案を認める。これにより、赤道連合も派遣兵力を増強。ユマ・コウツキ准尉。特殊任務群所属の第2MS戦闘群のパイロットとして配属される。ORB - 71 M1B “アストレイ” B型を受領。

C・E74年6月22日

“アイゼン・ライヒ”。接收したモビルスーツ生産施設にてUMF - 4 “グリーン”のコピー機生産を開始。LBM S - 727rの形式番号と共に“ゼーフロント”のコードが与えられる。“アイゼン・ラ

イヒ”降下部隊。予想外の進撃速度でノルマンディに到達。ユーラシア連邦による圧政を快く思わないヨーロッパ地方の国々により支援を受けていたための離れ業であった。

C・E74年6月25日

占領地から徴募された志願兵が一定数に達する。グルナラ・アリヤドフ、フィロメラ・ライヒャルト、ロスヴィータ・アガート。身体障害者志願兵として手術を受け、それぞれ、義眼、義手、義足によるインプラントを受ける。モビルスーツパイロットとしての適性がある判断され、“アイゼン・ライヒ”本国へ。イアン・リー大尉少佐待遇で“アイゼン・ライヒ”国防軍へ入隊。“ガーティ・ルー”艦長に着任。イアン・リー少佐と共に亡命した大西洋連邦兵士も同様に“ガーティ・ルー”のクルーとして迎え入れられる。“ガーティ・ルー”。単独での作戦能力を持った特殊部隊的な部隊として再編成。その過程で多くの亡命者や占領地からの志願兵が集められる。

C・E74年7月16日

独立部隊としての“ガーティ・ルー”隊の編成が完了。“ガーティ・ルー”船体の小改造によって、“ミラージユ・コロイド”システム搭載。国籍、出自などが雑多な部隊となったため、思想統一のために帯剣士官を派遣。ネオ・ロアノーク大佐着任。それと同時に大西洋連邦軍より接收した試作型モビルアーマー。LBM A - 000r “エグザス”も配備された。

C・E74年7月17日

ハイン・ヴェステンフルス中尉。“カーペンタリア”基地に配置転換。大尉に任官。地上におけるZGMF - 1001 “ザクファントム”の実戦テストが目的であった。

C・E74年7月20日

“アイゼン・ライヒ”。“ダス・ライヒ”級1番艦“ダス・ライヒ”就航。C・E時代の超弩級戦艦として各国に公表。第1武装親衛隊機甲MS師団“ライプシュタンダーテ・マイネリッター”旗艦として就航が行われる。“ダス・ライヒ”級2番艦の建造開始。名称は“アイゼン・ライヒ”。

C・E74年7月26日

ザフト軍。新造戦艦の開発に着手。大西洋連邦、モルゲンレーテ社造船部門などから“アークエンジェル”級の開発に携わった技術士官、造船技師などを招致。設計段階で意見だしが行われ、大幅な設計変更が行われた。

C・E74年8月18日

ZGMF-56S“インパルス”の調達数が150機を超え、新規生産数を絞り始める。最終的には200機程度の生産数で打ち切りとなることが検討された。マール・ストロード大尉。試作型の“シルエット”装備型“インパルス”のテストを行う。コートニー・ヒエロニムス中尉相当官。ザフト軍からプラント統合設計局に帰社。

C・E74年8月20日

“アイゼン・ライヒ”3度目の大規模降下作戦を実施。目標はユーラシア連邦領旧チエコ地域。今回の降下作戦は物資投下が主であり、これはユーラシア解放戦線への武器の供給、戦力委譲という側面も持っていた。“アイゼン・ライヒ”降下部隊。ドレスデンを制圧。これにて、ユーラシア連邦ドイツ地区の大部分の占領を終了。タスク・バゼラード少尉。ドレスデン上空にて、5機目の撃墜戦果を上げ、エースパイロットに。

C・E74年8月27日

ユマ・コウツキ准尉。特殊任務群の配備先であったユーラシア連邦領スロバキアにて、ユーラシア解放戦線の歩兵部隊と交戦。そのさなか、対戦車ミサイルによる攻撃に遭い、乗機を撃破され、重症を負う。

C・E74年9月10日

“アイゼン・ライヒ”。“エンデュミオン”クレーターの防衛力強化の名目で兵力派遣。その派遣された戦力の大半が“ラストバタリオン”時代にゲプハルト・マイネリッターに賛同していた者達。いわゆる“反マイネリッター”派であった。工業コロニールZZ222本格稼働。

C・E74年9月11日

地球連合。“エンデュミオン”クレーターに対して、強行偵察を敢行。“アガムノン”級航空母“フランクリン・ルーズベルト”を旗艦とする地球連合宇宙軍第6艦隊所属第7独立艦隊所属MS部隊。通称“アイアン・イーグルズ”が投入される。

C・E74年9月12日

日付が変わるとともに“エンデュミオン”クレーターにて、地球連合軍の強行偵察艦隊と“エンデュミオン”クレーター防衛隊との間で戦闘が行われる。強行偵察部隊は3隻の“ドレイク”級護衛艦、1隻の“ネルソン”級宇宙戦艦。18機のモビルスーツを失う損害を受けたものの、敵兵力の割り出しに成功。

C・E74年9月20日

大西洋連邦。月面での大規模反攻作戦の計画を立案。ジョセフ・コプラント。ワシントンで行われた会議にて、その概要を各国首脳に秘密裏に説明。各国の軍事力強化を目的とした計画の具体案がプラントより提案される。

C・E74年9月23日

ZGMF-601R“ゲイツR”型全軍配備完了。これにより、暫定的に主力機の座にあったZGMF-1017M2“ジンハイマニユーバ”2型の完全退役が開始される。しかし、機体数が多く、退役には時間がかかると、2級線兵器として“プラント”防空隊やコロニー警備部隊などで使用される続けることとなる。ザフト宇宙軍。“ジン”MH2型の退役はC・E76年後半まで掛かると推測。

C・E74年10月16日

大西洋連邦。全く異なった兵器システムが提唱される。高火力、高防御力、高推力を持った兵器をモビルスーツと連携させることによつて、部隊の総合能力の強化が行われるだろうという趣旨の兵器が提唱。サイズが“モビルアーマー”級になることが予想されたため、第2世代“モビルアーマー”と呼称される。拠点防衛、部隊前衛として活用出来るだろうとし、第2世代“モビルアーマー”の研究が進む。

C・E74年10月28日

L4の新造プラント“アームリーワン”にて、“ミネルバ”級1番艦“ミネルバ”起工。艦載砲として、陽電子破城砲“ローエングリオン”を搭載することが決定。大西洋連邦から“ローエングリオン”の実砲2門と設計図が寄与される。

C・E74年11月2日

プラント内の物資欠乏が深刻化。“オクトーベル”市の7番〜10番プラントを農業用コロニー改造する案が議会に提出される。ギルバート・デュランダル議長。家庭菜園レベルでの食物育成を奨励。一部のプラントではエネルギー需給が逼迫したため、節電を呼び掛ける動きが高まる。

C・E74年11月8日

“アイゼン・ライヒ”で、反マイネリッター派の謙虚が開始される。帯剣士官を中心とした摘発は凄惨を極め、裁判と称して一方的に判決を下し、処刑する手段が多用された。また、逮捕、摘発の段階で殺害された人間も少なくは無かった。

C・E74年11月19日

L4宙域に放置されていたコロニー“メンデル”を地球連合軍が軍事拠点化。拠点として使用できるレベルでの補修が始まる。しかし、対費用効果が釣り合わないということで軍事拠点化を諦め、単なる寄港地としてのみの使用に留まる。

C・E74年11月27日

ユーラシア連邦各地での反乱が激化。正規軍からの離反も相次ぐ。これにより、各部隊に政治将校を置くこととなる。また、部隊内での密告が奨励され、著しく軍の士気を削いだ。結果的に正規軍兵士の離反を促すことに。

C・E74年11月30日

戦後、一方的に解雇された元兵士がユーラシア連邦に対して抗議。ユーラシア解放戦線と結託し、ウクライナ地区の軍事拠点を攻撃。翌日12月1日までの戦闘で軍事拠点を制圧。

C・E74年12月3日

ユーラシア連邦書記長セルゲイ・アルセーエニフ。解雇された元兵士からの要求を拒否。これに激怒した元兵士達は人質数名を見せしめとして凄惨な方法で殺害。その映像を全てインターネット上にアップロードし、世界へ配信した。これに対して、アルセーエニフ書記長はユーラシア解放戦線を批判し、軍事力での排除を明言。

C・E74年12月4日

派遣されたユーラシア連邦軍がユーラシア解放戦線並びに元兵士達の排除を開始。この際、鎮圧という言葉は使われず、完全に排除と明言。同年の12月7日までにユーラシア解放戦線を排除。基地施設を奪還した。

C・E74年12月18日

ユーラシア連邦書記長セルゲイ・アルセーエニフ。ユーラシア解放戦線との真つ向からの戦闘を明言。翌日、現地時間の19:00時をもってして、ユーラシア連邦各軍に対してウクライナ地方への進撃を命じる。ユーラシア解放戦線との全面衝突は避けられない状態になる。

C・E74年12月20日

“アイゼン・ライヒ”エルファンスト・マイネリッター総統。ユーラシア解放戦線への支援を明言。これをラジオ、テレビ、ネット問わずに発信した。また、占領地民から結成された部隊“ノルトランド”の存在が明らかにされる。

C・E75年1月1日

年が明けても、ユーラシア連邦での戦況は好転せず。ユーラシア解放戦線、ゲリラ戦法と市街戦の多様により、ユーラシア連邦軍の前進を阻止。これに対して、ユーラシア連邦軍、航空戦力の多様により、ユーラシア解放戦線の歩兵部隊を攻略。ウクライナ地方の主要都市部を焦土に変えた。

C・E75年1月12日

ユーラシア連邦軍。電撃戦の如き進撃速度でウクライナ地域を制圧。ベラルーシ地方へ侵攻。大量の兵力を投入しての物量作戦を展開。

ユーラシア解放戦線。近隣の兵力をベラルーシへ振り向けることに。リトアニアからユーラシア解放戦線の兵団がベラルーシへ移動する。

C・E75年1月20日

ユーラシア連邦軍。猛撃によりベラルーシ制圧。ユーラシア解放戦線、戦力の損耗を避けるために、ゲリラ戦と焦土作戦を併用。ユーラシア連邦軍の追撃を回避し、ワルシャワ方面へ逃走。両軍の戦闘で民間人に多数の被害が出る。両軍の戦闘と終結後の焦土作戦によりベラルーシ市街は廃墟と貸した。ユーラシア連邦軍、多数の被害を受けたため、進撃速度が低下。ついに進撃が停滞してしまう。

C・E75年2月16日

オーブ連合首長国モルゲンレーテ社、可変型モビルスーツの開発に成功。MVF 主力可変戦闘機の形式が与えられる。同月25日MVF-M11C“ムラサメ”の名称で各航空部隊に実戦配備。初期生産機体数は32機。

C・E75年2月28日

マユ・アスカ、両親の反対を押し切って、ザフト軍訓練学校の入校試験を受ける。

C・E75年3月1日

アリシア・ジュール、メイリン・ホーク、ヴィーノ・デュプレ、ヨウラン・ケント。それぞれ軍訓練学校入校試験を受ける。

C・E75年3月10日

マユ・アスカ、アリシア・ジュール、メイリン・ホーク、ヴィーノ・デュプレ、ヨウラン・ケントらの入校通知書が届く。マユ・アスカ、アリシア・ジュール、適性検査でMSパイロット養成科へ。メイリン・ホーク、CIC担当官養成科へ。ヴィーノ・デュプレ、ヨウラ

ン・ケント。MS整備技能養成科へ。

C・E75年3月20日

月面都市“コペルニクス”にて“アイゼン・ライヒ”国防軍の新兵の閲兵式が執り行われる。閲兵式に際し、エルファンスト・マイネリッター総統が出席するが、これを狙って、テロが発生。しかし、すぐさま鎮圧され、マイネリッター総統は無事だった。

C・E75年3月21日

過日のテロ事件の容疑者数名が逮捕。即決裁判により処刑される。また、“コペルニクス”内で『過日のテロ事件は、マイネリッター本人が仕組んだもの』という流言が飛び交うが、真偽は不明。

C・E75年3月24日

マユ・アスカ、アリシア・ジュール、メイリン・ホーク、ヴィーノ・デュプレ、ヨウラン・ケント。ザフト軍訓練学校ディッセンベル市校に入学。以後、約10ヶ月にわたる速成訓練を受ける。

C・E75年4月12日

大西洋連邦にて、第2世代モビルアーマーの試作機TS-XB1B“ユークリッド”の1号機が完成。しかし、機体防御力の要である陽電子リフレクター“M-X123スルメンス・パリエース”は完成が間に合わず、実装されなかった。

C・E75年4月18日

大西洋連邦。TS-XB1B“ユークリッド”の量産体制を整え、量産開始。しかし、運用方面を拠点防衛のみに絞り、生産数を縮小する方針で生産を行う。試作機を表すXナンバーが形式番号から外れられ、TS-MB1B“ユークリッド”として配備開始。

C・E75年4月26日

“アイゼン・ライヒ”、ヨーロッパ地方での戦闘が終息に向かいつつあることを宣言。地球連合に対し、独立国家“アイゼン・ライヒ”としての承認を迫る。また、傘下の国家郡にも独立の気運を見せ始める。

C・E75年5月11日

“アイゼン・ライヒ”地上軍、スエズ運河確保のために艦隊を発進させる。ジブラルタル基地より発進した迎撃艦隊との間で戦闘になる。(地中海開戦)両軍ともUMF-4“グリーン”を投入し、ヤキン・ドゥーエ戦役時以来の大規模海戦となった。

C・E75年5月12日

“アイゼン・ライヒ”艦隊、迎撃のジブラルタル艦隊を破り、アフリカ共同体領リビアに到達。アフリカ共同体政府に対し、艦艇の停泊地及び橋頭堡となる地域の租借を要請。これに対してアフリカ共同体政府は中立の立場を通し、要求を認めず。大西洋連邦、アフリカ共同体の姿勢を非難。軍を派遣も辞さないと表明。

C・E75年5月30日

プラント、大西洋連邦。南アフリカ統一機構のビクトリア宇宙港に部隊派遣。ジブラルタル基地より発進した艦隊がリビアに侵攻。アンドリユー・バルトフェルド大佐率いる“バルトフェルド”隊と“アイゼン・ライヒ”艦隊との間で交戦。

C・E75年6月19日

ジブラルタル基地を発した“ボズゴロフ”級潜水空母による機雷敷設とUMF-4“グリーン”による地中海の海上封鎖が実施される。“アイゼン・ライヒ”地上軍。兵員移送を海路から空路に切り替えると同時に、ジブラルタル艦隊及び機雷の撤去作業を開始。地球連

合、“アイゼン・ライヒ”両軍による本格的な海戦の開始。

C・E75年6月26日

“アイゼン・ライヒ”地上軍。ユーラシア解放戦線と共にスエズ運河の攻略に乗り出す。地球連合、これを阻止するためにザフト軍部隊、及び近隣の南アフリカ統一機構より派兵を要請。（第二次エルアラメイン攻防戦の開始）

C・E75年7月28日

地球連合総会が大西洋連邦ワシントンで開かれる。総会の内容は、“アイゼン・ライヒ”への対処であった。総会では、各国から先の大戦からのエネルギー資源、物資的資源の枯渇が重要視されており、戦争継続に難色を示す意見が出るものの、大西洋連邦、ユーラシア連邦は「アイゼン・ライヒ」との講和はあり得ない」として、戦争継続を宣言。これに対して、いくつかの国家が地球連合からの離脱、派兵の拒否を表明し、総会は平行線を辿った。

C・E75年8月13日

“アイゼン・ライヒ”、新たな武装親衛隊を設立。第2武装親衛隊MS機甲師団“ラストバタリオン”と名付けられる。エルフランスト・マイネリッターの娘、アリストテル・マイネリッター大尉、“ラストバタリオン”所属のモビルスーツ1個中隊の指揮官として任官。

C・E75年8月26日

大洋州連合オーストリアにて、先の大戦以降に取り決められた。コルシカ条約の内容の再確認が行われる。“アイゼン・ライヒ”側の代表者として、地上軍総司令ドミニク・マイファルト陸軍大将と数名の左官、文官が参加する。

C・E75年9月17日

“アイゼン・ライヒ”地上軍、スエズ運河の攻略に成功。これより、太平洋上に“アイゼン・ライヒ”の艦艇がたびたび出沒することとなる。また、自前の潜水艦艇の建造を開始。

C・E75年9月22日

停滞していたユーラシア連邦軍が進軍を開始。『一兵も逃さず。一兵も残さず』を標語に、ヘリ部隊による策敵と攻撃ヘリ部隊による急襲攻撃を軸とした戦法。“見敵必殺”戦法を確立、実行。この戦法の多様により、ユーラシア解放戦線は多数の損害を被ることに。

C・E75年9月27日

月面“プトレマイオス”基地にて、“ダス・ライヒ”級2番艦“アイゼン・ライヒ”が就航。エルファンスト・マイネリッター総統の座乗艦となる。第1武装親衛隊機甲MS師団“ライプシュタンダーテ・マイネリッター”の旗艦であった“ダス・ライヒ”級1番艦“ダス・ライヒ”。第2武装親衛隊機甲MS師団“ラストバタリオン”の旗艦に配置転換。

C・E75年10月13日

“アイゼン・ライヒ”、軌道上より3回目となる兵力降下。タスク・バゼラード中尉、ルーマニアに移動。本格的なモビルスーツ戦を経験。同年12月までに撃墜スコアを21機にまで更新し、軍の日報にインタビューが掲載される。

C・E75年10月17日

“ミネルバ”級1番艦“ミネルバ”、ほぼ完成。武装などの調整を残すこととなる。各部隊からクルー、及びモビルスーツパイロットが選抜され始める。シン・アスカ少尉、レイ・ザ・バレル中尉。パイロット候補として選抜される。

C・E75年10月28日

ユーラシア連邦領ルーマニアにて“アイゼン・ライヒ”地上軍、ユーラシア解放戦線とユーラシア連邦軍が激突。ヘリ部隊に対する無反動砲や対戦車ミサイルによる攻撃により“見敵必殺”戦法を封じる方策を執る。“アイゼン・ライヒ”、汎用量産型モビルスーツL BMS - 02A “アラストール”の輸出モデルであるL BMS - 02Cを本格的に実戦に投入。

C・E75年11月14日

ユーラシア連邦軍。多数の兵力を失い、敗走。ルーマニア国境まで兵力を撤退させる。地球連合加盟国全てに対して、戦力的支援を要請。翌日、“アイゼン・ライヒ”地上軍、ユーラシア解放戦線も進撃を中断し、ルーマニア国境を挟んで両軍にらみ合いの状態が続く。

C・E75年11月28日

ルーマニア国境にて、“アイゼン・ライヒ”、ユーラシア連邦軍の偵察部隊が衝突を繰り返す。ユーラシア連邦軍、戦力の損耗を避けるため、戦線縮小と同時に戦力の後方撤退を行う。“アイゼン・ライヒ”地上部隊、これの追撃を行おうとするも、本国のエルファンスト・マイネリッター総統からの「同じ轍を2度も踏まぬように」との言葉から、追撃を断念。しかし、シベリア寒気団による厳しい寒さによって、凍死者が続出。結果的に後方地域へと撤退せざるを得ない状況になってしまった。

C・E75年12月2日

“アイゼン・ライヒ”地上軍、シベリア寒気団による予想外の損害を受けながらも、ルーマニアより撤退。ユーラシア解放戦線も焦土となったルーマニアより撤退したため、以後、ルーマニアは空白地帯となり、ヨーロッパ戦線における両軍の緩衝地帯となる。

C・E75年12月18日
プラント“アーモリーワン”にて、“ミネルバ”級1番艦“ミネルバ”が完成。マユ・アスカ、アリシア・ジュール。選考の結果、“ミネルバ”所属のモビルスーツ部隊パイロットに選出される。

C・E75年12月19日
“ミネルバ”級1番艦“ミネルバ”。L4宙域からプラント本国のL5宙域まで航行。この時、“アーモリーワン”に潜入していた“アイゼン・ライヒ”の内通者により、新造戦艦の就航の情報が“アイゼン・ライヒ”にもたらされる。

C・E75年12月23日
“ミネルバ”級1番艦“ミネルバ”。L5宙域での、ザフト軍関係者らへの非公式発表を終え、L4宙域へ帰還。公式発表は翌年の1月4日に決定。レイ・ザ・バレル中尉、シン・アスカ少尉。“アーモリーワン”への転属要請。アスカ少尉、中尉に昇進。

C・E75年12月25日
月面基地“プトレマイオス”より、“ナナバルク”級3番艦“ガーティ・ルー”発進。目標は友軍の工業用コロニーLZ222。

C・E75年12月28日
“ガーティ・ルー”、サイレントランニングによる隠密航行の末、LZ222に辿りつく。新機材、補給物資などを補給。ユウト・シユナイプス少尉、ザビーナ・クルツ少尉、ステラ・ルーシエ准尉。“ガーティ・ルー”を下船。別ルートにて、“アーモリーワン”へ向かう。“ガーティ・ルー”翌日にLZ222を出港、L4宙域の“アーモリーワン”を目指す。

C・E75年12月31日

マユ・アスカ、アリシア・ジュール。軍訓練学校を卒業し、軍曹に任官。“アーモリーワン”へ異動となる。

C・E76年1月1日

マユ・アスカ軍曹、アリシア・ジュール軍曹、タクマ・アレステイン少尉、アイリーン・ルティエンス少尉。L4プラント“アーモリーワン”に着任。また、他多数のクルーも集結。レイ・ザ・バレル中尉、シン・アスカ中尉。シャトルの不調により、着任が遅れる。

C・E76年1月2日

レイ・ザ・バレル中尉、シン・アスカ中尉。L4プラント“アーモリーワン”に着任。“ナナバルク”級3番艦“ガーティ・ルー”、“アーモリーワン”近傍の宙域に接近。別経路にて“アーモリーワン”に潜入中だったハインツ・ライネツケ中尉以下、10数名のモビルスーツパイロットが“アーモリーワン”内の格納庫に格納されていたZGMF-1017 M2“ジン”ハイマニューバ2型を強奪。ユウト・シュナイプ少尉、ザビーナ・クルツ少尉、ステラ・ル・シエ准尉。ZGMF-X24S“カオス”、ZGMF-X31S“アビス”、ZGMF-X88S“ガイア”。強奪。“アーモリーワン”内で戦闘が発生する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6393u/>

なぜなに種運命編

2011年10月9日16時16分発行